

実施計画事業名		地籍調査推進事業			評価対象年度	平成 22 年度			
評価担当部署		総務部用地管財課			課長(主幹)名	岡本 透			
総合計画体系	分野	4	都市基盤						
	政策	3	調和のとれた持続可能なまちづくり						
	施策	3	生活を支える社会基盤整備を進めます						
	関連施策								
現状と課題	中央地区からノシャップ2丁目地区までの北地区は、大正7年に作成された連絡査定図が公図となっているため、公図と現地が必ずしも一致しておらず、土地の境界に関してトラブルが発生したり、公共事業の推進に支障が出ている。								
目的	土地取引の円滑化、公共事業の効率化及び災害時の早期復旧化が図られると共に固定資産税の公平化が推進される。								
5ヶ年展開の	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年度～平成21年度 宝来3～4丁目 平成21年度～平成23年度 宝来5丁目、恵比須1丁目 平成23年度～平成25年度 恵比須2～3丁目 平成25年度～平成27年度 恵比須4～5丁目、ノシャップ1丁目、2丁目の一部 一年目は、土地所有者に対する説明会の開催、土地の境界に関する調査、現況測量及び復元案の作成。二年目は、復元案の閲覧の実施、境界の画定、地籍図及び地籍簿の閲覧の実施、最終確認。三年目は、成果の国への認証請求、地籍図及び地籍簿を法務局へ送付。								
成果指標	名称		単位			21年度	22年度	25年度	
	調査区域面積		km ²		目標	0.68	0.30	0.51	
	説明	地籍調査事業を実施する区域の面積(実施面積)			実績	0.68	0.30		
活動指標	名称		単位			21年度	22年度	25年度	
					目標	-	-	-	
	説明				実績				
					目標	-	-	-	
	説明				実績				
					目標	-	-	-	
	説明				実績				
事業費の実績		単位	21年度 (決算)	22年度 (評価年度決算見込)	23年度 (予算)	備考			
	直接事業費(A)		千円	13,392	14,215	12,747			
	国庫支出金		千円	5,424	6,825	5,059			
	道支出金		千円	2,712	3,412	2,529			
	起債		千円	0	0	0			
	その他		千円	0	0	0			
	一般財源		千円	5,256	3,978	5,159			
	この事業にかかる職員数		人/年	2.22	2.04	2.22			
人件費(B)		千円	15,376	13,854	15,076				
計(A+B)		千円	28,768	28,069	27,823				
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化								

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	a a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する>
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
コスト効率	a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	A 概ね問題なし <A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する>
	平成21年度から平成23年度まで調査を実施した宝来5丁目及び恵比須1丁目地区において、本来、調査着手初年度の平成21年度中に終えておくべきであった、調査対象土地の所有者が死亡している場合の相続人等調査が終わっていなかったことで、平成22年度実施の後続工程の進捗にも影響があったが、天候に恵まれたこともあり秋ごろまでには遅れを挽回することができた。今後計画している地区についても、土地所有者が死亡し相続登記がなされていない土地が多数あることが予想され、また、境界についてのトラブルも多数あると聞いているので、これに対応するために、調査対象地区の状況をよく把握し実情に合った事前準備を行うことで、計画どおりに工程を進めることができると考えられる。 なお、地籍調査事業については、土地境界についてトラブルが多い地区からの調査実施要望もあることから、今後も継続し、順次、調査を進める必要があると考える。

【2次評価】

成 果	a	細事業の構成	a	細事業の進め方	a	コスト効率	a
総 合 評 価	A 概ね問題なし <2次評価者の視点からコメントを記入する>						
	1次評価のとおり、今後も継続して、順次、調査を取り進めること。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--